

# 2023 年度事業計画

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

## I 基本方針

- 1, 設立者柳宗悦の思想について理解を深めつつ発展的に継承し、調和的社会的実現を目指す活動を行う。
- 2, 当館の特性を活かした質の高い展覧会を開催し、民藝に関する認識の普及に努める。
- 3, 展示室や収蔵庫の環境整備を行って貴重な蒐集品を保存管理し、併せて民藝に関する資料や情報のアーカイブ化を推進して次代に継承する。
- 4, 所蔵品の貸与や民藝に関する情報提供を通して国内外の美術館との連携を図り、文化交流の促進に寄与する。
- 5, 伝統的な手仕事の保存と新しい生活工芸の発展とを図るために、その製作にかかわる工人の育成に貢献する。
- 6, 我が国の文化史上重要な建物として東京都指定有形文化財に指定された日本民藝館本館及び西館を維持管理し、その活用を図りながら生活文化の発展に寄与する。

## II 公益事業

### 1、展示活動及び調査研究と情報収集・提供に関する事業

#### 1) 2023 年度開催の展覧会

- ・ 美しき漆 日本と朝鮮の漆工芸

会期：2023 年 4 月 13 日（木）～ 6 月 18 日（日） 58 日間

- ・ 聖像・仏像・彫像 柳宗悦が見た「彫刻」

会期：2023 年 6 月 29 日（木）～ 9 月 3 日（日） 59 日間

- ・ 村田コレクション受贈記念 西洋工芸の美

会期：2023 年 9 月 14 日（木）～11 月 23 日（木・祝） 61 日間

- ・ 2023 年度 日本民藝館展 一新作工芸公募展－

会期：2023 年 12 月 10 日（日）～12 月 24 日（日） 13 日間

公募作品の審査・表彰及び分野別講評会の実施

- ・ 柳宗悦唯一の内弟子 鈴木繁男展 一手と眼の創作

会期：2024 年 1 月 14 日（日）～3 月 20 日（水・祝） 57 日間

- ・ 展覧会記念講演

\*各展覧会の記念講演は、感染状況に応じて対面又はリモートによる講演会を企画する。

#### 2) 調査・研究及び情報収集・提供に関する事業

- ・ 所蔵品の調査・研究を基にした情報を整理し、展覧会等に供する。
- ・ Web サイトにて展覧会に関わる情報を随時提供する。

#### 3) 資料・文献などの保存管理と活用

- ・ 文献資料・図書類のデータベースのデータ更新を継続する。
- ・ 展覧会の図録を作成・出版を行う

## 2. 民藝の普及・振興に関する事業

- 1) 各地美術館及び他民藝館への所蔵品の貸与及び共同企画への参画
  - ・所蔵品の国内外の美術館・企業等への貸出や、共同企画展への参加を通して民藝の普及を行う。  
(高島屋「柚木沙弥郎と仲間たち展」、東映「民藝 MINGEI 展」、豊田市民芸館「沖縄展(仮題)、NHK プロモーション「生誕120年 棟方志功展」への出品を予定)
- 2) 出版などのメディアによる民藝の普及活動への協力
  - ・民藝運動の機関誌である雑誌『民藝』(発行：日本民藝協会)への編集協力
  - ・ちくま学芸文庫から再版される『民藝図鑑』と『民藝四十年』への編集協力
- 3) 各地美術館や学校及び関係団体への講師・講演協力
  - ・日本民藝協会の催事及び民藝館や美術館、大学等への講師(学芸員)派遣を通し、民藝運動及び日本民藝館の活動をアピールし普及・推進させる。
- 4) 博物館実習の受け入れによる現場教育の機会提供
  - ・博物館学芸員資格の習得を希望する学生に対し現場における知識・技能の習得を支援し、将来の美術館活動を担う人材の育成に協力する。  
実習生数：約15人程度 実習期間：10日間(講義4日、実務実習6日)
- 5) 「日本民藝館友の会・維持会及びキャンパスメンバーズ」会員への情報提供と入会の案内
  - ・会員や一般を対象としたセミナー、見学会などの定期的な開催を企画していく。
  - ・会員に情報「日本民藝館の特別展・記念講演・見学会の案内」を定期的に送付する。
- 6) 小学校を中心とする学校との連携による美術館教育などの教育普及活動
  - ・民藝の普及活動の一環として、小学生を主対象とした鑑賞教室などの企画・運営を行う。
- 7) 関連団体との連携
  - ・近隣施設との情報交換や活動の連携に努め、展覧会資料の配布などでPR強化を図る。
  - ・他の美術館や関連団体との連携や協力を深め、研究活動や展覧会の充実化を図る。
- 8) 国際文化交流に関する事業
  - ・韓国サムソン美術館(リウム美術館)で開催される「朝鮮白磁大展」(2023年2月末～5月末)への出品協力を通して、日韓の文化交流に努める。
  - ・スウェーデン国立グスタフスベリ陶芸美術館で開催される「濱田庄司とヴィルヘルム・コーゲ(仮題)展」(2024年6月～)に向けての準備を継続進行。同展はグスタフスベリ陶芸美術館と日本民藝館の共催で実施。当館学芸員が本年度現地会場および作品調査のため渡欧を予定。
  - ・ウィリアム・モリスギャラリー(英国・ロンドン)学芸員による来日調査が4月に予定

## 3. 民藝に携わる工人の育成及び協力・支援に関する事業

- 1) 日本民藝館展の開催(新作工芸公募展)
  - ① 新作工芸品の公募  
日本民藝館で年に一度開かれるもので、伝統的な技術を継承して作られている手仕事の品と、民藝の美を指針とする個人作家の品を全国から公募し、工人(作り手)の育成支援と暮らしに役立つ工芸品の発展や普及を目的に実施。
  - ② 入選作の展示公開と販売  
選考された優秀な作品を大展示室で展示公開する。また、入選作品(準入選作品を含む)の即売を通して作り手を支援し、世の中に優れた新作工芸品を普及させる。

③ 出品者を対象にした表彰式・審査講評会の実施

審査委員を交えた講評会を実施して、工人に対して仕事の質や方向性を確認する場を提供し、併せて工人同士の情報交換や親睦を深めることを通じて、工人の育成支援を図る。

#### 4. 広報活動・運営管理の向上に関する事業など

1) 広報活動

- ・ Web サイト及び駅貼り有料ポスターによる展覧会情報の発信

展覧会や各種催事の情報をホームページやソーシャルメディア (Facebook、インスタグラム) を通して発信するとともに、EC サイト (インターネット上で商品販売) の活用を進めていく。

- ・ マスメディアの情報による集客強化

館の展覧会・催事について、TV、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット情報誌などの多方面にわたるマスコミ取材に積極的に対応し、情報提供の周知化を継続的に進める。

- ・ プレス及び関係者向けの情報発信の実施

- ・ 弊館の歴史やコレクションを紹介する映像資料の視聴提供を継続する。

- ・ 展覧会の特性に応じ、インスタグラム撮影スポットのブースを設置し、来館者の情報発信を促す。

2) 来館者の安全・安心に向けた対応

- ・ 前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の防止・予防対策の強化を継続的に行う。

- ・ 展覧会の特性に応じ、日時指定予約システム等を引き続き活用し、入館待ち時間の軽減と館内の混雑緩和を図る。(対象は主に日本民藝館展)

3) 展示施設に係る環境の改善

- ・ 本館展示室の照明機器の LDE 化を行う。

- ・ 本館展示室床下の湿気防止対策を行う。

### Ⅲ 収益事業

- 1) 駐車場の賃料、日本民藝館展 (新作工藝公募展) の入賞出品作の展示販売支援による収益が、当館の運営における安定した収入源となっている。

- 2) ミュージアム・ショップの運営は、民藝の振興と展覧会への理解を深めてもらうことを目的に実施。展覧会図録、ポストカード及び手作り品等による品揃えの充実化とネットレジを活用し販売、在庫管理を効率的に行っていく。

以上